

このアンケートは、昨年 11 月に実施した「看護師/臨床工学技士 退勤時間調査」と一緒に行ったもので、109 名の方から回答がありました。

初めてのアンケートで、分析が難しく時間がかかりましたが、AI を使ってまとめることが出来ました。アンケートにご協力された方、ありがとうございました。

組合では、皆様の「生の意見」を取り上げて職場環境改善のために努力して行きますので、今後とも協力を おねがいします。

九州大学教職員組合 医系支部

項目	20 代～30 代の主な理由	40 代～50 代の主な理由
① きつい	仕事量と賃金が見合わない。プレッシャーが強く、患者の要望に振り回されて疲弊する。	体力の限界。加齢に伴い夜勤が身体に corres する。夜勤中しかできない業務の負担感。
② 汚い	職業柄仕方ない(割り切り)。感染症リスクへの不安。	排泄物ケアやオムツ交換の多さ(特に外科系でも寝たきりが多い現状)。
③ 危険	針刺し事故や感染リスク。患者からの暴力や精神的な攻撃(クレーム)。	常にリスクと隣り合わせの緊張感。感染性の高い現場での不安。
④ 規則が厳しい	(記述少なめ)	身だしなみ(靴下の色、髪型、白衣)への疑問や、喫煙不可などの制約。
⑤ 給料が安い	責任の重さや仕事内容に対して、手取りが低すぎる。生活はできるが納得感がない。	長年働いても仕事量に見合った昇給を感じにくい。
⑥ 休暇がとれない	人手不足で希望が通りにくい。連休が取りづらい。	子どもの行事等で週末休みを優先したいが、気を遣う。有給消化が困難。
⑦ 婚期が遅い	出会いのなさ、不規則な生活によるすれ違い。	(過去を振り返り)生活が不規則なので仕方がなかった。
⑧ 化粧がのらない	夜勤明けの肌荒れ。マスク生活による肌トラブル。	加齢による乾燥と夜勤のダブルパンチ。鏡を見るのが辛い。
⑨ 薬に頼る	鎮痛剤、胃腸薬、便秘薬。ストレス解消のためのアルコール・タバコ。	鎮痛剤(腰痛等)、安定剤。持病の薬を飲みながらの勤務。

データの傾向分析 ( AI による )

1. 若年層(20-30 代)の悩み: 精神的な\*\*「プレッシャー」と「対価(給料)」のバランスへの不満が目立ちます。患者からのハラスメントに近い要求に疲弊している様子が伺えます。

2. ベテラン層(40-50 代)の悩み: 圧倒的に\*\*「体力の衰え」と「夜勤の負担」\*\*です。また、昔ながらの厳しい規則や、人手不足による業務密度の変化(外科なのに介護業務が多い等)にギャップを感じています。

3. 共通の課題: 「薬(鎮痛剤・胃腸薬など)に頼らざるを得ない」という回答が非常に多く、心身ともに限界に近い状態で現場を支えている実態が浮き彫りになっています。

## 看護師 9K アンケート分析

( 同意度 80%以上は黄色で表示 )

同意度 ( % )

年代	サンプル数	きつい	汚い	危険	規則が厳しい	給料が安い	休暇が取れない	婚期が遅い	化粧がのらない	薬に頼って生きている
～24 才	20	90.0	75.0	95.0	65.0	55.0	70.0	40.0	60.0	15.0
25～29 才	38	94.4	77.8	94.4	71.4	88.2	69.4	77.1	55.6	38.9
30 代	26	91.7	70.8	95.8	91.7	91.7	75.0	54.2	54.2	33.3
40 代	17	93.3	80.0	100	93.3	80.0	64.3	50.0	28.6	42.9
50 代	7	85.7	71.4	100	57.1	100	57.1	28.6	57.1	42.9
60 才～	1	0.0	0.0	100	0.0	0.0	100	0.0	0.0	100

註) 「薬に頼って」は9Kの同意度(8項目)から外し、別指標として「今、薬を使っている」**使用率**を年代別に別グラフで作り直しました。